

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4572000422		
法人名	医療法人山仁会山口整形外科		
事業所名	グループホーム メゾン・なでしこ		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋3225番地 (電話) 0983-23-8023		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月23日	評価確定日	平成21年7月30日

【情報提供票より】 (平成21年6月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年6月2日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	1		
年齢	平均 86.8歳	最低	81歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口整形外科、団井歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、高鍋駅近くの利便性の良い場所にあり、母体法人の病院、老人保健施設、通所施設に隣接している。平成12年に開設されたが、木造建築でいまだに木の香りがして床がきれいで、廊下の天井が高く造られている。居間、食堂は、本がたくさん置かれて、イスやテーブルもたくさん配置されて自由に過ごせる空間となっている。研修については、年間計画があり、法人内・外の研修の機会があり、参加してサービスの質の向上に努めている。そして、職員一人ひとりが明るく利用者に声かけしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域の行事等への参加は、これからの取組である。家族、医師、職員で終末期に向けた意向の確認をしておき、変化が生じた場合は再確認をしている。食事については、できる限り3食をホームで作る取組がなされていた。浴槽は浅く改良し、浴槽台、スベリ止めマットで安全面に配慮している。居室は、家族より使いなれた物や写真、枕などが持ち込まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営会議で、職員全員で協議して自己評価に取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議で行事の報告をし、その中で出た意見等をサービスの向上に生かしている。町の担当者がホームを訪れ、利用者の状況等見学している。また、電話等で連絡して相談を行うなど、連携を取っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの便りを2か月に1回発行している。また、家族の面会の時にも報告している。出納簿も毎月家族が確認し、サインが行われている。玄関入口に苦情担当者を明記している。また、年1回家族にアンケートを実施して、意見や苦情を出しやすくしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの夏祭り、七夕、ひな祭りなどの行事に地域住民の参加がある。また、菜園などの草むしりにも地域住民の積極的な参加があり、利用者との交流が行われている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義や役割を理解し、地域のなじみの人的・社会的環境の中で安心して暮らし、地域の行事に参加することを目指した理念を職員全員で作りにあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、日々介護の中で声掛けなどで実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭り、七夕、ひな祭りなどの行事に地域の方が参加している。また、菜園などの草むしりにも積極的な参加があるなどの交流が行われている。しかし、地域の行事への参加はまだ行われていない。	○	運営推進会議で、地域の行事等についての情報を収集し、地域の行事への参加に取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議で協議を行ない、職員全員で自己評価に取り組んだ。前回の改善点についても、職員全員で検討し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行事の報告などを行っている。また、その中で出た意見等を運営会議で話し合い、サービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者が月2回ホームを訪れ、利用者の状況等見学している。また、ホームの運営などについて、電話等で連絡、相談を行い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は、ホームの便りを2か月に1回発行するなどにより行なわれている。利用者の健康状態や職員の異動については、家族の面会時に報告している。出納簿は、毎月家族の確認のサインが行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書、玄関入口に苦情担当者を明記している。また、年1回家族にアンケートを実施して、意見や苦情等を出しやすくしている。出された意見等は、運営推進会議で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については、利用者への影響を考えて、また、現場の意見を聞き、最小限に抑えている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修について、法人内・外の研修や新人研修など年間計画を立て、数多くの研修に参加している。その他にも、職員が参加したい研修に参加でき、運営推進会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会などに参加している。また、同業者と情報交換など行いサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人も一緒に見学に来てもらい、雰囲気や職員と顔なじみになれるようにしている。法人内事業所を利用中であれば、何度かホームに来て頂き少しずつなじんでいただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、利用者に教えてもらったり手伝ってもらうことがある。そういう時に感謝の言葉かけを忘れず行い、共に支えあう関係づくりを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を得たり、本人が希望するホームでの過ごし方など、できる限り応えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人から意見を聞き、運営推進会議で担当者や看護師から意見を聞き、職員で話し合い介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3か月で行い、モニタリングは毎月行っている。家族、職員から意見を聞き、必要に応じて見直しを行い、新たな介護計画書を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望や家族の状況に応じて、買い物、墓参り、通院など外出の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。1ヶ月に1回家族がつき添い受診しているが、その際、ホームからかかりつけ医に情報提供書で状況を報告しており、受診後の状況も連絡をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師、職員で終末期に向けた意向の確認を行ない、カルテに記載している。状況に変化が生じた場合、再確認してカルテに記入し方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の研修を取り入れている。トイレはドアとカーテンがあり、利用者の状況によりプライバシーを確保するために使い分けがしてある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の日課が決めてあるが、利用者一人ひとりの状況や希望などを優先した暮らしの支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が同じテーブルで食べ、介助しながら声掛けしたり、箸の補助具を準備してできる限り自分で食べることができるように工夫されている。また、利用者がテーブル拭きや下膳などできることが行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2回であるが、希望を重視し午前、午後それ以外にもいつでも入浴ができる。また、浴槽台、滑り止めマットが準備されて安全面にも気配りしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の草むしり、刺し子、自分史を書いたり、短歌をまとめ本を発行したり、楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を職員と行ったり、利用者の希望で買い物、ドライブ、外食など家族の協力も得て行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。利用者で外に出る方がいるが、一緒につき添って出ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合訓練を、昼、夜間を想定し、隣の老人保健施設や地域の住民の協力を得て行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じて、食事摂取量、水分量のチェックが行われている。水分にむせる方は、お茶ゼリーにしたり、お茶が飲めない方は、ジュースやスポーツドリンク等を出して水分量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の香りがする廊下の天井が高く明るい建物で、動物の写真や、ソファ、いすが多く配置してある。また、新聞や本棚には本も多く置かれ、利用者が落ちついた雰囲気でも過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、思い出の写真、自分で書かれた書の掛け軸、自宅で使われていた毛布、枕、洋服掛けなどが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。